

石クリ通信

10月号

時差

院長

石川 悟

秋になると夕暮れが早くなり、「つるべ落とし」のようになつて、気持ちも落ち込んでいきます。
ところで2020年近く前、初めて四国を訪れた際に、夕暮れが遅い、と感じたことがあります。まだ明るいうちに羽田発の飛行機に乗って四国（確か高松）に向かいましたが、天気が良いせいもあり、いつもなら暗くなっている時間なのにやけに明るいのです。日立と高松では緯度が違うので、日の入り時刻が違うのは当然のことですが、初めての四国だったせいもあり、ひとり感動していました。

9月15日の時点で、日立の日没時刻は5時45分、高松の日没時刻は6時11分、21分の差があります。ちなみに日本の最東端の南鳥島の日没は4時48分、最西端の与那国島では6時52分、2時間以上も違いがあります。

日本国内は兵庫・岡山・石川が基点となる標準時が使われて、時差はありませんが、ご存知のようにアメリカ本土は四つの標準時があり、時差があります。留学中に住んでいたテネシー州は、それ程大きな州ではありませんが、州内に時刻変更線があります。初めてのドライブ旅行で、住んでいたメンフィスから東方のノックスビルに行った時、街中の時計が自分の腕時計の表示と違うのに気づき、時差があるのを実感しました。幸いこの時に実害はありませんでしたが、同じメンフィスに住んでいたドクターの家族は、時差を忘れて飛行機に乗り損ねたことがあったそうです。

秋の夜長、そして新型コロナウイルスで外出もままならないので、部屋にこもって「読書の秋」を楽しもうと思います。

バスレシピ

看護師

太田 小百合

みなさんはバスレシピという言葉を知っていますか？ バスレシピとは、SNSなどで拡散され、話題となったレシピのこと。疲れていてもすぐ作れ、「早くて、安くて、おいしい」んだそう。そこで私も作ってみました。じゃがりことさけるチーズと塩とお湯を混ぜるだけのマッシュポテトです。夫には不評でしたが、「子どもは「おいしい！」と高評価でした。写真をみてどうですか？ 「おいしそう！」と思いますか？ たくさんのバスレシピがあるので、みなさんも作ってみてはどうでしょうか。

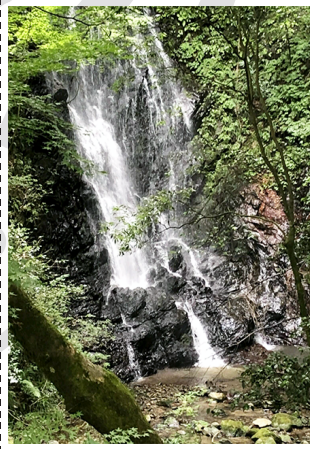


ちよこつとドライブ

看護助手

柴田 さち子

三月末から新型コロナウイルスで自粛が続き、外出も買物ぐらい、早めに買物を済ませて自宅へ帰る日々でした。自粛して半年近くたち、気分転換に、玉だれの滝までドライブし、マイナスイオンをたくさん吸って来ました。帰りに太田のおそば屋さんへ寄り、週三日だけの営業とのこと、駐車場も満車、入口は行列、入店できるまで暑い中を一時間待ちました。娘たちは天ぷらそば、私は天ぷらうどん。うどんは腰があり、天ぷらもお腹も大満足。お店側も、濃厚接触や換気に気配りをしてくれ、チョコッとドライブは最高でした！



インフルエンザの予防接種のご案内

事務

田所 弓佳

当院では十月よりインフルエンザの予防接種を開始しました。今年から日立市助成対象者と助成金が去年より増えたので、当院での金額は六五歳以上の方が1500円、一九歳以上六五歳未満の方は3500円になります。

我が家のコロナ禍

事務

森 多加子

この春、大学生になった次男。4月から一人暮らしをしながら大学生生活を満喫するはずでした。ところがコロナ騒動で、引越したのは新生活のために揃えた家電製品やベッドだけ。当の本人はオンライン授業を受けながら未だに実家暮らしです。10月からは対面授業が始まる予定でしたが、学生たちの安全を守るためにと来年度の3月まで現状のままオンライン授業を受けることになってしまいました。家主のいいアパートで電子レンジや炊飯器は使ってもらえる日をじっと待っています。

どこへいった体育の日！

看護師

澤田 彰子

今年の祝日はオリンピックが開催される予定でいろいろと変更になっていったんですね。7月に「スポーツの日」でお休みした事などすっかり忘れていて最近になって10月の体育の日がない事に気付きました。今まであったものがなくなると損した気分になるのは私だけなのでしょうか？

大坂なおみのメッセージ

事務長

石川 都

今回のテニス全米オープン女子シングルスで優勝した大坂なおみ選手の、優勝インタビューへの受け答えがネット上で話題になった。

「私はアスリートである前に黒人女性」と語る彼女は、米国で続く黒人差別に抗議して一時は棄権したが、その後大会側の説得で試合参加を続行し、決勝までの全七試合に、事件の被害者の名前を記したマスクをつけて登場した。決勝まで残って初めてマスクが全員の七人分になったことを考えると、一試合一試合での彼女の並々ならぬ覚悟が窺い知れる。

優勝インタビューで、七枚のマスクに込められたメッセージについて問われた彼女は、「あなたは何を受け取りましたか？」とインタビュアーに逆に問いかけた。そして、皆さんが（私のマスクから）どのようなメッセージを受け取ったかに関心があります。私のマスクがより多くの人たちにこのこと（黒人差別）についていろいろ考え、語り合うきっかけになってくれたらうれしい。と語った。

彼女自身が黒人の混血として米国でさまざまな差別も経験したであろうことは、かつて米国南部にいた私達にも容易に推測できるが、それにしても若千二十歳の彼女が、質問者にあえて問い返しつつ、自分の意見を静かにかつ毅然と述べる姿には、とても感動した。私もかつて大学で学生たちに、大学は覚えるより考えるところなので、試験も自分の考えを書く記述式とし、授業でも皆に問いかけてゆくから、毎回何か一つは自分のアンテナで受け、それについて深く考えるきっかけにしてほしい。といったも繰り返していた。優勝会見での彼女の、コート上の勇姿とは打って変わった物静かで丁寧な語り口には、シャイな日本人らしい雰囲気も感じられ、優勝の栄誉とともにこの会見の見事さで、大坂なおみ選手のファンはさらに増えたと思う。

来夏の浴衣

通信・ウェブ担当

石川 香

趣味で着物を着たり、和裁をしたりしています。今年は夏祭りや花火大会が中止になってしまったので、来夏の娘の浴衣を縫っています。三歳の割に長身な娘の来年を見越すと、なんと十歳前後のサイズを縫うことに。ひと夏だけの洋服と違い、肩上げと腰上げで調節すれば数年着れそうです。娘の好きな柄が見つかり、親子で今から楽しみにしています。

